

# 宇都宮の民話



宇都宮市教育委員会

表紙版画  
二荒山神社(明治10年当時)  
〈川上澄生作〉

文化財シリーズ第6号

# 宇都宮の民話

昭和58年2月

宇都宮市教育委員会

## 序

千年余の歴史を持つ宇都宮市には多くの民話が生れ、育ち、一方では長い年月の中で消えていったものも、少なくないと思います。

民話は、先人の生活感情を表現したものであり、現代に生きる我々にとっては、その時代に生きた人々の生き方を知る大切な資料でもあります。

しかし、戦後急激な価値観の変化等から、市民の心からこれらの民話が忘れ去られようとしていることは、誠に残念であると言わなければなりません。

この度、市内に伝承する民話を一斉に調査したところ、当地に発生した民話の他に、旅人がもたらしたと思われるものもあり、本市が古来の交通の要衝であったことをよく現わしております。

ここに文化財シリーズ第6号「宇都宮の民話」を発刊致しましたので、生活は貧しくとも豊かな想像力と潤いのある心を失わなかった祖先の生活態度を汲み取っていただければ幸いに存じます。

最後に、本冊子の発刊にあたり、誠意をもって調査をして頂いた文化財調査員の方々及び調査に御協力いただいた話者の方々に心から感謝申し上げます。

昭和58年2月

宇都宮市教育委員会

教育長 後 藤 一 雄

# 目 次

|                 |          |            |          |
|-----------------|----------|------------|----------|
| 序 文             |          |            |          |
| まえがき            | -----    |            | 4        |
| 話者一覧            | -----    |            | 5        |
| 参考書籍一覧          | -----    |            | 5        |
| 1 朝日観音霊験        | ----- 6  | 23 茅勘助の碑   | ----- 25 |
| 2 徳地藏           | ----- 7  | 24 黄鮎と郷土玩具 | ----- 26 |
| 3 汗かき阿弥陀        | ----- 8  | 25 久部川の水止め | ----- 27 |
| 4 雨乞い山          | ----- 9  | 26 孝子桜     | ----- 28 |
| 5 天子塚           | ----- 9  | 27 ごぜ石     | ----- 29 |
| 6 飯山の獅子舞        | ----- 10 | 28 静桜      | ----- 30 |
| 7 五十里洪水の予言      | ----- 11 | 29 蛇々窪の大蛇  | ----- 31 |
| 8 一条町の坂道        | ----- 12 | 30 篠井の池    | ----- 31 |
| 9 宇都宮城の釣天井      | ----- 13 | 31 正月餅と宝泉寺 | ----- 32 |
| 10 宇都宮明神援兵の話    | ----- 14 | 32 成高寺     | ----- 33 |
| 11 うらない仏        | ----- 15 | 33 白坂観音    | ----- 35 |
| 12 大網のいわれ       | ----- 15 | 34 末広稲荷    | ----- 35 |
| 13 大石神社         | ----- 16 | 35 雀の宮     | ----- 36 |
| 14 大谷寺          | ----- 17 | 36 関堀の獅子舞  | ----- 37 |
| 15 おしどり塚        | ----- 19 | 37 宗円獅子舞   | ----- 37 |
| 16 おしんめさまのこま犬   | ----- 20 | 38 訴人婆さん   | ----- 38 |
| 17 おびんずるさん      | ----- 20 | 39 田芋おぢ    | ----- 39 |
| 18 男抱山物語        | ----- 21 | 40 大豆三粒の金仏 | ----- 40 |
| 19 御室の観音様       | ----- 22 | 41 田うない地藏  | ----- 41 |
| 20 鏡ヶ池          | ----- 23 | 42 多気城運命の日 | ----- 42 |
| 21 鎌倉坂          | ----- 23 | 43 稚児が坂    | ----- 43 |
| 22 亀井の水         | ----- 24 | 44 稚児の墓標   | ----- 44 |
| 45 鶴舞塚          | ----- 44 |            |          |
| 46 鉄五郎の仇討ち      | ----- 45 |            |          |
| 47 伝右衛門と白イノシシ   | ----- 46 |            |          |
| 48 百目鬼          | ----- 47 |            |          |
| 48 道鏡の降雨祈願      | ----- 48 |            |          |
| 50 飛山城の白ナマズと古井戸 | ----- 48 |            |          |
| 51 戸室山の百穴       | ----- 49 |            |          |
| 52 とんでもねえ太郎左衛門  | ----- 50 |            |          |
| 53 名主弥治右衛門      | ----- 50 |            |          |
| 54 長岡の百穴        | ----- 51 |            |          |
| 55 長柄稲荷         | ----- 52 |            |          |
| 56 白蛇           | ----- 53 |            |          |
| 57 橋潜り地藏        | ----- 54 |            |          |
| 58 初音観音         | ----- 55 |            |          |
| 59 種爪氏の首        | ----- 55 |            |          |
| 60 火防き延命地藏      | ----- 56 |            |          |
| 61 藤原利仁の悪者退治    | ----- 56 |            |          |
| 62 不思議なお灯明      | ----- 57 |            |          |
| 63 身代り地藏        | ----- 59 |            |          |
| 64 八坂神社のわき水     | ----- 60 |            |          |
| 65 六道閻魔堂        | ----- 61 |            |          |
| 未収録表題一覧         | -----    |            | 62       |
| さくいん            | -----    |            | 63       |
| あとがき            | -----    |            | 65       |

## まえがき

本冊子は、昭和57年度に宇都宮市教育委員会が、市文化財保護審議委員会の答申を受け、市文化財調査員活動の一環として実施した「伝説と伝承調査（昭和57年度の課題別文化財一斉調査）」の結果をもとにしてまとめたものです。

調査は、昭和57年4月21日から11月30日迄とし市内全域について実施しました。

その結果、112件が報告されましたが、本冊子では、書籍等に掲載されているもので調査漏れと思われる民話を加えて収録しました。

本冊子の編集は、市教育委員会社会教育課の職員があたり、編集にあたっては、一応次の基準を設定しました。

1. 内容を記して掲載する民話は、民話を「民間に伝承されている説話（広辞苑・岩波書店）」とし、昔話・伝説等に該当するものとする。
2. 上記に該当しないと思われるもの及び該当しても最近（明治以後）の話は、原則として内容は記さず、巻末に話の表題・伝承地等を記載するに止める。
3. 民話の内容は、市文化財調査員から提出された報告書を中心に関係書籍を参考にして記載する。
4. 民話の掲載順序は原則として五十音順とし、各民話ごとに関係する写真及び伝承地略図を収録する。

### ●宇都宮市文化財保護審議委員会委員

|           |            |           |
|-----------|------------|-----------|
| 野中退蔵（委員長） | 雨宮義人（副委員長） | 岩崎良能（委員）  |
| 森谷憲（委員）   | 富祐次（委員）    | 谷田部康幸（委員） |
| 堀静夫（委員）   | 阿久津浩（委員）   | 小堀時藏（委員）  |
| 戸田博亘（委員）  |            |           |

### ●宇都宮市文化財調査員

|           |                             |                             |
|-----------|-----------------------------|-----------------------------|
| 黒川孝三（一条）  | 塚田宗雄（陽北）                    | 加藤康照（旭）                     |
| 内藤二郎（陽南）  | 石川秀男（陽西）                    | 釜井宗一（星が丘）                   |
| 松本文一郎（陽東） | 平塚良雄（泉が丘）                   | 糸川弘明（宮の原）                   |
| 菊池正仁（平石）  | 直井茂吉（清原） <sup>57.11退任</sup> | 増淵藤四郎（横川）                   |
| 坂寄悦男（瑞穂野） | 小林哲夫（豊郷）                    | 半田勝（国本）                     |
| 高山伝治（城山）  | 福田操（富屋）                     | 阿久津義正（篠井）                   |
| 松本笑悦（姿川）  | 小島豪市郎（雀宮）                   | 田中親明（清原） <sup>57.12新任</sup> |

### ●宇都宮市教育委員会社会教育課職員

|             |              |             |
|-------------|--------------|-------------|
| 半田昭（社会教育課長） | 安達光政（文化振興係長） | 定岡明義（文化振興係） |
| 木村光男（文化振興係） | 手塚英男（文化振興係）  | 梁木誠（文化振興係）  |

—（ ）は担当地区—

## 話 者 一 覧

| 番号 | 氏 名     | 住 所        | 生 年 月 日   | 番号 | 氏 名    | 住 所        | 生 年 月 日   |
|----|---------|------------|-----------|----|--------|------------|-----------|
| 1  | 浅川 仁太郎  | 西原2-3-6    | 明39・1・30  | 18 | 小沼 和一郎 | 大谷町1036    | 昭6・1・13   |
| 2  | 新井 菊次郎  | 花房2-9-33   | 明32・5・25  | 19 | 小針 孝哉  | 泉町4-30     | 大3・3・19   |
| 3  | 安納 均    | 飯田町266     | 大13・5・27  | 20 | 小堀 時藏  | 瓦谷町46      | 大2・6・19   |
| 4  | 伊藤 君香   | 堀田1-3-11   | 昭26・12・11 | 21 | 坂寄 悦男  | 上桑島町1963   | 昭4・8・17   |
| 5  | 稲木 宏济   | 材木町6-11    | 大13・3・6   | 22 | 佐々木 盛昭 | 泉町2-16     | 昭10・11・6  |
| 6  | 井上 栄雄   | 西原1-4-1    | 大5・12・13  | 23 | 柴田 日圓  | 戸祭町2-4-17  | 明40・9・7   |
| 7  | 入江 昇兵   | 下横田町724    | 大15・1・15  | 24 | 清水 円照  | 西原2-1-10   | 昭7・5・23   |
| 8  | 植木 与三郎  | 下砥上町1159   | 明33・1・18  | 25 | 田代 明男  | 駒生町947     | 大10・7・30  |
| 9  | 宇賀神 栄三郎 | 下欠町642     | 明28・5・2   | 26 | 高木 歆了  | 南大通り1-4-27 | 昭2・1・10   |
| 10 | 梅宮 芳太郎  | 清住1-3-48   | 明36・5・1   | 27 | 高木 順道  | 小幡1-2-10   | 大7・4・28   |
| 11 | 大久保 政   | 堀田1-3-4    | 大10・12・15 | 28 | 徳田 浩淳  | 東堀田1-3-3   | 大4・1・18   |
| 12 | 大島 儀市   | 篠井町607     | 大7・9・10   | 29 | 根本 春子  | 栄町5-2      | 大4・3・8    |
| 13 | 岡部 佐四郎  | 篠井町1887    | 明36・1・25  | 30 | 北条 フク  | 松原3-7-3    | 明24・2・15  |
| 14 | 落合 昌市   | 戸祭元町2433   | 大12・10・12 | 31 | 福田 トシ  | 東谷町381     | 明45・3・1   |
| 16 | 加藤 テル   | 南大通り1-8-19 | 明39・8・10  | 33 | 松本文一郎  | 石井町2334-5  | 明38・11・23 |
| 15 | 加藤 貞一郎  | 飯山町690     | 明38・2・1   | 32 | 真分 利七郎 | 中島町37      | 明25・11・18 |
| 17 | 小池 寿    | 岩曾町1353    | 昭2・1・22   | 34 | 横島 道男  | 鶴田町1640    | 大6・7・24   |

## 参 考 書 籍 一 覧

| 番号 | 書籍名(著・編者、出版社等)    | 番号 | 書籍名(著・編者、出版社等) | 番号 | 書籍名(著・編者、出版社等) |
|----|-------------------|----|----------------|----|----------------|
| 1  | 宇都宮の寺院(宇市教委)      | 15 | 栃木県神社誌(県・神社庁)  | 29 | 河内郡誌(河内郡教育会)   |
| 2  | 宇都宮の文化財(◇)        | 16 | 栃木県総史(小林友雄)    | 30 | 御室観音縁起(善願寺)    |
| 3  | うつのみや(市広報課)       | 17 | 下野伝説集・追分の宿(◇)  | 31 | 自性院寺史(自性院)     |
| 4  | 宇都宮市60周年誌(◇)      | 18 | ◇・あの山この里(◇)    | 32 | 同慶寺(直井茂吉)      |
| 5  | 宇都宮市史(田代善吉)       | 19 | 下野伝説集(県連合教育会)  | 33 | 富屋村史(福田操)      |
| 6  | 宇都宮誌(◇)           | 20 | しもつけの伝説(◇)     | 34 | 姿川村史(市立図書館蔵)   |
| 7  | 宇都宮郷土史(徳田浩淳)      | 21 | 下野の伝説(尾島利雄)    | 35 | 豊郷村郷土誌(◇)      |
| 8  | 宇都宮の歴史(◇)         | 22 | 下野の仏像(野中退蔵)    | 36 | 篠井南部郷土誌(◇)     |
| 9  | 宇都宮史跡めぐり(◇)       | 23 | 栃木の城(下野新聞社)    | 37 | 横川村誌(◇)        |
| 10 | 栃木の民話(日向野徳久)      | 24 | 物語栃木県史(徳田浩淳)   | 38 | 平石村郷土誌(◇)      |
| 11 | 栃木の伝説(下野民俗研究会)    | 25 | 郷土史話(◇)        | 39 | 清原村郷土誌(◇)      |
| 12 | 日本の伝説・栃木(角川書店)    | 26 | 石の里の民話(大野登士)   | 40 | 国本村誌(◇)        |
| 13 | 栃木県の民話(日本児童文学者協会) | 27 | ロマンの寺(徳永隆平)    | 41 | 篠井村郷土誌(◇)      |
| 14 | 栃木県郷土史散歩(落合書店)    | 28 | 郷土資料事典・栃木(人文社) | 42 | 城山村郷土誌(◇)      |

# 1 朝日観音霊験

伝承地：本町9-18（光明寺）

参考書籍：1・6～8・17



（光明寺観音堂）

宇都宮5代城主頼綱は、武士の生活を捨て法然に帰依して実信房蓮生と名のり和歌を友としながら仏の道に精進した。

建保3年（1215）、京都から宇都宮に帰った蓮生は、蓬萊町に閑居するとお堂を建て観音像を安置したという。

この観音像は、「蓬萊観音」とも呼ばれたがいつしか「朝日観音」とも呼ばれるようになり、宇都宮景綱が東勝寺を建立すると本尊になったといわれている。

しかし、東勝寺が廃寺になってしまい観音像は光明寺（本町）に移され現在に及んでいると伝えられている。この「朝日観音」には、霊験あらたかな物語が数多く伝わっているが、ここでは四つのお話を紹介する。

1. 天授6年（1380）、宇都宮11代城主基綱は、茂原の地において小山義政の軍と戦い戦死し、その部将上三川城主今泉但馬守は小山勢に捕えられ、顔だけ残して地中に埋められ、さらに髻を固く木の太枝に結びつけられ逃げられないようにされました。

ところが但馬守は日頃から朝日観音を崇敬していたので、一睡もせず仏の加護を祈りました。すると、夜半に但馬守を激励する声が力強く風の音を押し分けるように響いてきました。すると不思議なことに、身体は地中から抜け出し、木の枝に結びつけられた髻は解けていました。そして無事に逃げることができました。

2. 江戸時代のなかごろ、馬場町の乾いてしまった鏡ヶ池のほとりに、貧しいけれどもとても仲の良い夫婦が住んでいました。この夫婦は、毎朝朝日観音にお参りをすることを日課としていました。

長い間、子どものなかった夫婦に、朝日観音の霊験により男の子が授かりました。しかし、出産後、間もなく妻が病気で亡くなってしまったので、子供の父の悲しみは深く、近所の人たちも声もかけられないようなありさまでした。しかし、信仰心のあつい父親は、朝に夕に、朝日観音に子供が無事に大きく育つようにと祈りました。

空腹どきになると、乳を求めて泣くので、近所で半年前に出産をした人の乳をもらうことになりました。しかし、夜半に、母のぬくもりの恋しさのためか空腹のためかはげしく泣くので、止



むなく自分の乳をふくませたところ、不思議にも母親の乳のようになり、子供の空腹を満たすことができました。そして、無事に心のやさしい元気な子どもに育てることができました。

3. 朝日観音を深く信仰していた道場宿の新吉は、朝日観音の縁日の帰り、ほろ酔い気分で鬼怒川のほとりまでやって来ました。すると突然、草むらに隠れていた賊が、新吉めがけて、剣を抜いて襲いかかってきました。あわてた新吉は、ほろ酔い気分もふき飛んでしまって、川沿いにある船着き場まで夢中で逃げたけれども、どうしたわけか、その日に限って船がありません。追いつめられた新吉は、ただただ一心に朝日観音に祈り川に飛び込みました。

すると、不思議なことに、水中に一度沈んだ身体は、浮き、川の上に立つことができました。そして地面の上を走るのと同じように、鬼怒川の川面を走って、向う岸まで渡ることができました。賊もこの不思議な光景には、ただぼう然とするだけでした。

4. 安永2年、西原組屋敷から出火し、宇都宮41町が全焼するほどの大火の時、朝日観音を信仰していた大工の平助は、火に追われて、命からがらやっとの思いで観音堂の前まで逃げてきました。しかし、火の勢いは増々激しくなり、お堂のまわりは、真赤な火の粉が舞い踊り、建物のくずれる音は、雷のようでした。

死を覚悟した平助は、地面に顔を付け、身を小さくして、観世音の名を繰り返し、繰り返し唱えました。

すると、不思議なことに、突然、お堂と平助のまわりの火の勢いは、波が引くように、遠のいていき、助かることができました。



## 2 あざ 地 蔵

伝承地：徳次郎町

参考書籍：33



(痣地藏)

徳次郎町中町の日光街道沿いに、痣地藏堂と呼ばれているお堂がある。ここは、むかし、神宮寺といわれ、このお堂の中に、痣地藏が安置されている。

お地藏さんにまつわる話しは数多いが、この痣地藏は、あざやいぼで困っている者が願をかけるとすぐなおるとされているものである。

この地藏は、変った姿の地藏で、近隣の村はもとより、遠く茨城県のあたりからもおとずれたという。

比沙門山の西側の開懸の際に地中から発見され、智賀都神社に安置された後、現在地に移されたといわれている。



### 3 汗かき阿弥陀

伝承地：西原2-1-10 (一向寺)

話者：24・28 参考書籍：1・2・4・9・18・22



(汗かき阿弥陀)

応永12年(1404)4月2日 宇都宮12代城主藤原(宇都宮)満綱の銘がある仏像で高さ約1m、発願帰依の文字が衣全体にわたって刻まれている。この銅造阿弥陀如来坐像(国指定重要文化財)は、宇都宮満綱が願主となって、下河原長楽寺の本尊として鑄造された。長楽寺は、本多正純の時代に城拡張のため西原に移されたが廃寺になり、阿弥陀仏は一向寺の客仏として、今日に至っている。

阿弥陀仏は、万人を極楽浄土へ導く仏様として親しまれているが、この阿弥陀様は世に吉凶異変のある時、その前兆として、身体全体に汗をかくので「汗かき阿弥陀」として、昔から人々の信仰を集めてきた。発汗の記録は次の通りである。

1. 応永30年(1423) 宇都宮氏13代城主持綱が、塩谷郡幸岡で自害する数日前。
2. 天文18年(1549) 宇都宮氏20代城主尚綱、喜連川五月女坂で戦死した前日。(9月26日)
3. 慶長2年(1597) 宇都宮氏が、豊臣秀吉に滅された10月上旬。
4. 元禄11年10月(1698) 宇都宮領内の農民達が、免合(年貢の割合)訴訟のため、城下に集まったその前日。
5. 享保8年(1723) 五十里洪水の前日。
6. 宝暦3年(1753) 宇都宮領の百姓一揆が起こった2日前。
7. 慶応4年(1868) 宇都宮焼失落城(戊辰戦役)の前日、4月19日と4月23日。
8. 明治2年(1869) 材木町大火の前日。
9. 明治27・37年(1894、1904) 日清・日露戦争前。
10. 大正12年(1923) 関東大地震の前日の8月31日。

なお、一向寺には別に次のような話が伝わっている。

「一向寺は一度も火災にあったことがなかったが、戊辰戦争の際には寺のまわりが火におおわれて、一向寺に火の手がかかろうとした時、汗かき阿弥陀の化身が本堂の屋根にまたがり、滝のような汗をかいて火を防いだ。

したがって、この阿弥陀仏は凶年を知らせるだけでなく、火難も打ち払う仏像といえる。



## 4 雨乞い山

伝承地：飯山町

話者：15



(雨乞い山)

飯山の農村飯山では、日照りが続くと村中総出で村内にある雨乞いの山愛宕山に登り、山頂にあるほころにお酒を供え、その後ほころの回りを「ジイッチとオツプレショ」と何回も唱えながら回って祈ると家に帰り着く頃には雨が必ず降ってきたと伝えられている。

むかしは、日照りが続くと、大切な稲を枯らすことになりかねないので農民はたいへん恐れていた。

したがって、村には必ずといってよいほど雨乞いの場所があった。なかでも、村内に河川がなく天水に頼って稲作を行っている山合いの村では、日照りが少し長く続くと水不足に悩むのであった。

このような山間の農村では、平地の村以上に雨乞いは重要なものとなっていた。

宇都宮北部の山合



## 5 天子塚

伝承地：東戸祭一丁目16 (祥雲寺)

参考書籍：1



(天子塚)

干天が続いた時は、境内にある竜神様の前でお祭りをして、その後、塚の上を鍬で2～3回掘ると必ず雨が降るといわれている。

祥雲寺境内に天子塚と呼ばれている全長約40mの前方後円墳がある。

この古墳は、二荒の神(二荒山神社)を父とし雷の神(雷電神社)を母として生まれたものと言われ、天子塚という名もここからついたものらしい。さらに、不思議なことには、二荒山神社、雷電神社が、この天子塚からみて巽の方向へ一直線に並んでいるという。

また、天子塚は別名を雨子塚とも書き、



## 6 飯山の獅子舞

伝承地：飯山町（阿蘇神社）



(獅子舞の奉納)

を大いに崇め慕ったが、病にかかり飯山の地で永眠してしまった。

藤原利仁の死を悲しんだ飯山の人々は、利仁の守神の三尊神獅の頭を奉納すると共に毎年、阿蘇神社に獅子舞を奉納したと伝えられている。

参考書籍：1

宇都宮に現存する獅子舞は、一人立三匹獅子舞と呼ばれているもので、飯山町に伝承されている獅子舞のほか新里町の宗円獅子舞、関堀町の獅子舞があり共に市の文化財に指定されている。

飯山の獅子舞は、鎮守府将軍藤原利仁にちなむものであると伝えられている。

延喜年間、藤原利仁は、近隣を荒し廻る山賊の頭目藏宗・藏安兄弟を高座山で追討した。

里人たちは、利仁



